

スピーカー 音質比較

HARBETH Monitor30.1 Monitor20.1

HARBETH Monitor20.1

(写真：左)

希望小売価格 ¥240,000 (ペア)

形式：2Way・パスレフ方式●ユニット
高域：19mm/アルミドーム 低域：
125mm●能率：83dB/1W/1m●定 格
入力：150W●周波数特性：75-20kHz
●サ イ ズ：W188×H305×D190mm
●重量：13.4Kg(1 台)●仕上げ：グレー
のみ



HARBETH Monitor30.1

(写真：右)

希望小売価格 ¥230,000 (1 本)

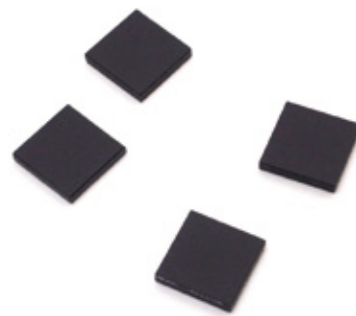
形式：2Way・パスレフ方式●ユニット
高域：25mm/アルミドーム 低域：
200mm●能率：85 dB/1W/1m●定 格
入力：150W●周波数特性：50-20kHz
●サ イ ズ：W277×H460×D285mm
●重量：13.4Kg(1 台)●仕上げ：チェ
リー・グレー

スタンドにはスタンドの天板と 30.1 底板の間に挟んで使う、黒いゴム状の緩衝材 (J1 Project 製品) が付属します。

HARBETH HSS-30C

希望小売価格 ¥80,000

4 本脚のスタンドが純正品として用意されています。



HARBETH と逸品館

逸品館は日本国内で、HARBETH HL-Compact と HL-5 を最も多く販売した販売店の一つです。それは価格で上回る他メーカーの上級モデルを圧倒するほどの開放的で楽しい鳴り方をとても魅力的に感じたからです。当時の国産代表 HiFi スピーカー DIATONE では「静的に躍動しない音楽」が HARBETH HL-5 と HL-Compact では「本当に楽しく弾んで」聞けたことを今もハッキリ覚えています。

「オーディオは価格じゃない」と気づかせてくれたスピーカー、そして当時まだ本格的にオーディオの良さに目覚めていなかった私の目を開き、逸品館を「セレクト・オーディオショップ」としてスタートさせる決心をさせてくれたのが HARBETH なのです。

しかし、HARBETH の創設者であり初代からの設計者であった「ハーウッド氏」がお亡くなりになり、設計が

後継者の「アラン・ショウ」に完全に移行して発売された HL-Compact の後継機、HL-Compact7 の音を聞いたとき私は愕然としました。あの明るく楽しい HARBETH が全く違う暗く重い音に変わっていたからです。

私から見れば 180 度全く違う音になった HL-Compact7 を前にして、私は途方に暮れました。逸品館が大セールスを記録した HL-Compact の後継として当然注目が集まり、当然注文も殺到する HL-Compact7 ですが、私はそれを HL-Compact の後継モデルと認められなかったからです。その判断が正しいのかどうかは今も分かりませんが結局、ビジネスチャンスを捨てても私はそれを販売することはありませんでした。どうしてもそれが同じメーカーから発売される製品とは思えなかったからです。

それから 20 年近くの年月が流れ、久しぶりに試聴した HARBETH の最新モデル「Monitor20.1」を聞いた時、私は再び大きな驚きを感じました。それから出た音は、私が望んでいた HARBETH の音だったからです。しかし、同時に聞いた Monitor30.1 (チェリー仕上げ) は、私が評価しない HARBETH の音でした。

一体どちらが本当の HARBETH なのか？あるいは、HARBETH は 2 重人格なのか？未だに途方に暮れていますが、とりあえず最初に試聴したハイグロス・グレー仕上げの Monitor20.1 とチェリー仕上げの 30.1 の仕上げによる「音の違い」を疑い、一旦試聴機を返却してからもう一度 Monitor30.1 のハイグロス・グレー仕上げと Monitor20.1 を一緒に試聴機として再度拝借し、試聴を行いました。



音源は CD をリップした WAVE
ファイルをつかいました。

AIRBOW SSS-2013



AIRBOW AV8801 Special



AIRBOW MM7055 Special

Monitor30.1



POPS のマスタリングにデジタル編集が導入されてから、平均音圧レベルを上げる（音を大きくする競争）が勃発しました。それは同じソフトを比べたとき「音が大きい方が良く聞こえる」からです。

また、ヘッドホンステレオのようなダイナミックレンジの小さい廉価な装置では「小さい音が聞こえにくい」という理由から、小さい音をより大きく、大きな音は小さくする「圧縮（コンプレッション）」が強くかけられ、音の強弱が驚くほど小さくなっています。店頭に設置されているテレビ画面が「明るすぎる」と画面に奥行きや深みがなくなるように、音楽も音の強弱がなく単調で深みや変化が薄れたものになってしまいます。

高級オーディオを持つ我々オーディオマニアは、同じ CD でも高級な装置で聞けば「よりよい音が出る」と信じています。しかし、このようにダイナミックレンジが圧縮されたソフトは、高級オーディオで聞くとヘッドホンステレオで聞くよりも必ずしも良い音になりません。この問題を解決するための「ヒント」は色彩にあります。モノクロ映像では「同じ明るさの画像」は識別できませんが、カラー映像なら識別できます。音声の場合も「音量が同じでも音色に違い」がきちんと反映されていれば音が団子にならず、高級コンポで聞くとそれなりに分離感と広がりのあるよい音で音楽を楽しめるのです。

オーディオ機器のスペックには現れない「音色の再現性」は、ソフトを作る場合にも装置を選ぶ場合にも非常に重要です。例えば、男女混声合唱団で男性と女性が「同じ音の高さ」で歌っていても私達は男女の声の「質の違い」で我々はそれを識別・分離してハーモニーを感じられます。つまり、録音再生のプロセスでそれぞれの「音の個性（質感の違い）」をきちんと反映することが大切なのです。逆に言えば、高級オーディオ機器はパブリック・オーディオ機器では再現できない「音の個性」をきちんと再現するからこそ、録音の優れたディスクなら「聞き取れなかった音」が聞こえるようになるのです。

しかし、J-POP は桑田佳祐（サザンオールスターズ）やミスチルのようなトップミュージシャンの CD ですら質感の違いが十分に反映されておらず、高級オーディオでは音がごちゃごちゃになり聞くに堪えない音になっ

てしまいます。「売り」を意識して作られていない、「夏川リミ」や「元ちとせ」のような実力派歌手の CD は比較的素直に録音されていて高級オーディオで聞くとその声の素晴らしさに感動するだけに、J-POP 全般の録音の悪さは残念に思います。

そんな J-POP に比べてマイケル・ジャクソンやレディー・ガガのような世界的に著名なトップミュージシャン、あるいは K-POP でもトップミュージシャンの CD は、高級オーディオで聞いても納得できる「質の違いが反映されたサウンド」に仕上げられています。最近、K-POP を良く聞いているのは「音が良い」のも大きな理由です。そんな K-POP から今回は、sister という女性 4 人グループのアルバムを選んでみました。sister は、K-POP 歌手の中でも飛び抜けた歌唱力を持っています。最近 J-POP よりも遙かに元気が良く、音楽として良くできているのが「K-POP」です。高級コンポで聞くとまるで AM ラジオのような J-POP が多いのに対し、K-POP は最先端のアメリカなどの POPS と同じように「裏側の小さい音」がきちんと残されています。ヘッドホンや普及価格帯のコンポーネントで聞くと、この「大きな音の裏側に隠れている小さい音」は聞こえてこないのですが、高級コンポで聞くとそれが「ハッキリと聞き取れ」ます。聞こえなかった音が聞こえる。音楽の響きがより豊かになる。それが高級コンポの醍醐味ですが、そのためには「裏側の音」がしっかりソフトに入っていないとなりません。

私が気に入っていた HL-Compact や HL-5 は、そういう「裏側の細かい音」を分離して実に美味しく再現してくれました。細かい音が空中に漂うように部屋を満たしてくれました。しかし、最初にテストした Monitor30.1 は裏側の音をなんとか分離しますが、その音色の変化が非常に小さく（対比が小さく）主旋律と伴奏の位置関係が近くて音場が広がらず平面的です。また、スピーカーの正面近くで聞くと細かい音が聞こえますが、正面を外れたところで聞いたり、スピーカーから離れたと途端に細かい音の再現性に不満が感じられます。

サラネットによるロスを疑い、不満の解消のためネットを外しましたが状況は変わりませんでした。高音は伸びず、低音は箱の中から外に出てきません。こういう場合は「スピーカーの固定」を疑います。スピーカーがしっかり固定されていないと「高音の明瞭度が低下して低音がもやもやする」事があるからです。

話は少し変わりますが、私がオーディオの常識で一番大きく間違っていると思うのは「高音と低音の関係」

です。雑誌や多くのオーディオマニアは低音に不満を感じたら、「低音を変えること」を考えます。しかし、高音の質感が変わらなければ、低音は改善しません。50Hz の正弦波をスピーカーで再生した場合、アンプを変えても音はほとんど変わりません。それは、アンプで低音の質感がほとんど変化しないからです。しかし、AIRBOW 波動ツイーターのような「高音発生機器を付けば」低音は著しく変化します。それは低音楽器からは、低音だけが出ているのではないからです。私達が聞いている「低音（あるいは低い音階を奏でる楽器の音）」は、低音と高音が複合して生み出されるからです。

それをもう少し詳しく説明しましょう。アコースティックな低音楽器からは、低音と同時に高音（倍音）が発生します。その倍音によって発生する高音や、あるいは楽器を打撃するときに発生する衝撃音が低音を「包み込むように限取る」と、私達には低音感が非常に強くなります。例えば構造が似ているティンパニーと和太鼓の音が違って聞こえるのは、太鼓の皮を柔らかいばちで叩くティンパニーには少ない高音が、太鼓の皮を硬いばちで叩く和太鼓には多いからです。つまり和太鼓の低音は、鋭い高音で限取りされることで「衝撃的なパワー」を得ているのです。

「単体では、ふわふわして耳には聞こえない低音」でも、それを「高音や衝撃音」で包み込めば存在感が遙かに大きくなります。目に見えない空気を風船に詰めるとその存在感がハッキリと感じられるのと似ているかも知れません。とにかく低い周波数の音を「高周波の皮（スキン）」で包み込めば実感が向上します。話が長くなりましたが、低音がスピーカーから離れないのは高音の輪郭感が不足しているからなのです。

HARBETH Monitor30.1 の純正のスタンドは、脚が細く見た目にも華奢でシッカリスピーカーを固定しようにありません。さらにスタンドとスピーカーの間に「ゴム（J1 の高分子インシュレーター）」を挟むように指示されているのも気になります。そこでサイズは合いませんが、脚を強度が高く音の良い Acoustic Design AD-35a に変えてみました。

ボーカルの明瞭度は改善し、低音も弾むようになりました。まだ、HL-5 の開放感溢れる音には達していませんが、この音ならなんとか音楽を楽しめるかもしれません。それでも 3 号館の環境で他のスピーカーと比べると、Monitor30.1 は響きが少なく閉鎖的に聞こえます。今回は K-POP の 1 曲だけを評価しましたが、Jazz、Classics も同じ印象でした。

スピーカー 音質比較

HARBETH Monitor30.1 Monitor20.1



で、外枠に沿って設けられている溝にしっかりとめ込まれています。お客様がスピーカーを傷付けずにネットを外すのはかなり難しいと思います。

写真では少しわかりにくいかもしれませんが、ウーファー・ツイーターともに違うものが使われています。

また、20.1 のツイーター保護グリルには透明の丸い樹脂が取り付けられています。一種の音響レンズや反射体として働き、20.1 の音を整えているのでしょう。この反射体は、30.1 には取り付けられていません。

端子はどちらもシングルワイヤリングです。

Monitor30.1 のバスレフポート部分の塗装が剥がれていました。これがクレームとして認められるのか？確認していませんが、業務機なので「音質には関係がないのでこれでOK」となる可能性があります。また付属のネットは「外さない」ことが基本



Monitor20.1 音源はCDをリップしたWAVEファイルで試聴



Monitor20.1 の鳴り方は Monitor30.1 とは全く違うことが、一音出た瞬間から感じられます。ウーファーの口径が小さいにもかかわらず Monitor20.1 の低音は、音階がハッキリして厚みがあり

Monitor30.1 よりも量感が感じられます。ユニットの材質の影響かあるいはエンクロージャーの構造の影響なのか低音が少しスローに感じますが、リズムが走る曲でなければ問題ないと思います。

音が重なる部分の分離感も 20.1 は、30.1 を大きく凌ぎます。すべての音が重苦しい霧のベールに包まれたように感じた 30.1 に比べ、20.1 の音は鮮やかで晴れわたります。中でもボーカルの抜けは素晴らしく、音色も見事に描き分けられるので 4 人のコーラスが立体的に綺麗に分離します。この「声の分離感」に関して 20.1 は、30.1 はもちろんのことこのクラスの水準を大きく超え、スピーカーの中でもトップクラスかも知れないと思えるほどの能力を持っています。試しに、このサイズで最もお気に入りの Stirling Broadcast LS-3/5a と比べましたが、20.1 はそれすら凌いでいました。このボーカルの抜けの良さ、伴奏との対比の鮮やかさこそ私が大好きだった「HARBETH」の魅力なのです。

楽器の音は全体的に角が少し丸いですが、音色の再現性に優れカラフルです。本当にこんな小さなスピーカーから音が出ているのか？と疑うくらい、スケールの豊かな音が出ます。また、情報量(音の数)もかなり豊富で、

音が広がっても音が希薄になりません。これも、このクラスでは考えられない魅力です。わずかな欠点は、中低域のアタックが少し丸くて低音が止まるところで膨らむことです。ハードなロックやメタル系の音楽を聞くときにはそれが気になるかも知れませんが、それとトレードにこの楽しくカラフルな音が鳴るのであれば、それを欠点と判断するのは、少し無理があるかも知れませんが。



弦楽器の鮮やかさと艶やかさが見事に再現されます。若干音が明るすぎるように感じますが、それは音楽をより大きく躍動し、楽しく聞かせる方向に働きます。また、Stirling Broadcast LS-3/5a にも

驚かされたが、20.1 もこのサイズにかかわらず低音の不足感がまったく感じられません。

同じ大きさの 2Way スピーカーから同じような重厚な低音が出るのは、エンクロージャーのサイズやユニットの組み合わせに何か特別音が良くなる関係(関連性)があるのかも知れませんが、バイオリンとチェロ、コントラバスの楽譜上の対比をこれほどまでに再現できるスピーカーはそれほど多くはないはずです。20.1 で聴くコンチェルトは、Vienna Acoustics Beethoven Concert Grand(T3G) が鳴っているといわれても俄に納得しそうなほどリッチに鳴りました。

あえて Stirling Broadcast LS-3/5a と 20.1 の違いを挙げ

るならば、20.1 はより音が若々しく明るい分だけ「深み」に欠ける感があります。滑らかで明るい音ですが、少し表面的に感じる場合があります。BGM 的に聞き流しているときとても具合が良いのですが、論評するために聞き込もうとすると薄いベールがかかったように音楽の底が見えなくなります。もし、クラシックの知的な一面までしっかりと把握したいとお考えなら、LS-3/5a をお勧めします。価格も近く構成も似ている HARBETH と Stirling Broadcast の選択は、「どちらが良いか」では決まりません。「どちらが好きか」なら、すぐに決まると思います。あるいは、両方欲しくなるかも知れませんが。



予想通り、いいえ予想以上に美しいバイオリンの音にほれ惚れます。生の音よりは少しマイルドですが、それがうまくバイオリンの艶を濃くしています。エンクロージャーの僅かな響きが、ホール

トーンの豊かさをうまく演出しています。1 弦から 4 弦にかけての基音、倍音の関係も正しく、バイオリンの音が自然に聞こえます。この音なら演奏を楽しめると同時に、録音をモニターするような聴き方をしてもまったく問題ありません。音場型でありながら、フォーカスも甘くない。20.1 は、相反する二つの問題を上手く解決しています。すべての音がレガートで繋がっているような滑らかさが、20.1 の持ち味です。

音源を CD に変更し試聴

AIRBOW
SA11S3 Ultimate

希望小売価格 ¥ 580,000

marantz CD/SACD プレーヤーのフラッグシップ SA11S3 に 100 カ所を超える改良を加え誕生した、192kHz/24bit 対応 USB 入力を備える一体型 CD/SACD プレーヤー。

AIRBOW
PM11S3 Ultimate

希望小売価格 ¥ 550,000

marantz から発売されるプリメインアンプのフラッグシップ PM11S3 に 160 カ所を超える改良を加え誕生した、AIRBOW プリメインアンプの最高峰。



50 歳代以上の方なら「かまやつひろし」の名前はご存じだと思います。「我がよき友よ（吉田拓郎 / 作詞作曲）」が彼の有名なヒット曲です。「楽譜通りにきちんと歌う」ことばボーカルの条件なら、彼より

今回この曲を聴いたのは、ほぼ友人のように懇意にしている私と同年代の逸品館のお客様が東京から来られていたときに「Monitor20.1」を鳴らしていたからです。趣味でギターの弾き語り演奏活動を行っている彼とは音楽の趣味も近いようで、「このスピーカーは何？ 良い音なってるねえ。ボーカルが良いね！」という話から、録音の良いボーカル CD をかけてみようという流れになり、共に知るミュージシャン・楽曲として「20 オの頃」を聞いてみることにしたのです。

ここで少し「20 オの頃」について説明しましょう。私が持っているのは、ムッシュかまやつの「フレグランス」というアルバムです。フレグランスは、ムッシュと実力派の女性ボーカリストのデュエットが 7 曲とムッシュの弾き語り一曲納められています。その中から 7 曲

目に収録されているムッシュと今井美樹さんのデュエット曲「20 オの頃」を聞きました。私には今井美樹さんのボーカルは「表情がわりと平坦に感じられるように」感じられ本当はもっと深みのある歌い方が好きなのですが、「20 オの頃」は大好きなので話し合った結果それを聴くことにしたのです。

あまり好みでないと言った今井美樹さんのボーカルを 20.1 で聞くと実にチャーミングで魅力的な声に鳴ります。普段気にとめない女性が、俄然魅力的に見えてくるようなイメージです。ムッシュの声も若々しく、この一曲を聴くためだけでも、Monitor20.1 を購入する価値があると思えるほど魅力的な音でお洒落にデュエットが鳴りました。この音は本当に素晴らしいです。

も上手に音程を外さず歌える素人は沢山いるかも知れません。しかし、ボーカルを「気持ち伝える」と考えるなら、彼の実力派やはり飛び抜けて一流だと思います。独特の節回しでじんわりと味のあるムッシュのボーカルは、心に深く響きます。

試聴後感想

今回の試聴では、30.1 はほとんど聞かず（聞く気にならず）Monitor 20.1 で様々な音楽を一週間以上聞き続けました。結局「20 オの頃」を超えるほどマッチした曲はなかったのですが、それでも 20.1 の高い実力を存分に楽しむことができました。しかし、Monitor 30.1 で「20 オの頃」を聞くと、とたんに人生を諦めた老人が歌っているような暗くて重い曲に聞こえます。これには友人の同じ意見で、こっちはダメだねえ。ということになりました。もちろん、音には人それぞれ好みがあり私が「気に入らない」というのは曖昧な一つの指標に過ぎませんから、本当の善し悪しや好き嫌い 30.1 を実際に聞きになって判断して欲しいと思いますし、

試聴の結果 30.1 は素晴らしいという事になれば、それでよいと思います。しかし、Monitor20.1 と 30.1 は、同じメーカーの製品とは思えないほど音が違うのは事実です。また、同一メーカーでこれほど音や方向性の違う音の製品を作るメーカーを他に知りません。後日談になりますが、あまりにも Monitor20.1 を気に入ったので、このスピーカーを万人が家庭に持ち込みたいと考える色（例えばチェリー仕上げ）にできないかと代理店に尋ねると「HARBETH はそういうことはしない」とその場ではなげつけられました。さらに食いつ下がり、Monitor20.1 は、すでに発売されている HL-P3ESR と完全に同じユニットとネットワーク、エン

クロージャを採用するのであれば、20.1 にしか使われていない OFC の内部配線を HL-P3ES に移植することはできないかと尋ねるとそれもその場で無理とはなげつけられてしまいました。業務用スピーカーのみを作っているならそれも良いと思いますが、一般家庭用のスピーカーを作るメーカーなら、HARBETH ファンのためにもそこは一考して欲しいと思うのです。頑固一徹もポリシーのためには悪くないのかも知れませんが、大好きだった人に袖にされたような、一縷の空しさが残りました。でも、Monitor20.1 で聞く「女性ボーカル / バラード」は超お勧めです！機会があれば、一度どこかで聞いてみて下さい。逸品館には展示しています。